



(近江八幡)

滋賀・光相寺遺跡

1 所在地 滋賀県野洲郡中主町大字西河原

2 調査期間 一九八六年(昭61)四月～十二月

3 発掘機関 中主町教育委員会

4 調査担当者 徳網克己・山田謙吾

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 奈良時代前期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

光相寺遺跡は、野洲郡の中部に位置し、琵琶湖岸より約2km内陸に入った沖積平野に立地する。今回の調査は、中主町の土地区画整理事業に伴う第五次調査として実施したものである。

調査の結果、奈良時代前期の掘立柱建物跡、溝跡、自然河道等を検出した。木簡は、長さ一二m以上、幅二・五m、深さ三〇cmの溝跡から出土した。溝跡は、茶褐色腐植土が堆積してお

り、二点の木簡の他に、斎串、人形、刀形、琴柱、横櫛、決りの加工を施した桃の果核などや、フイゴの羽口と鉾澤、紡錘車(鉄製)、馬鞍に取り付ける鞍金具(銅製)が出土した。

光相寺遺跡の第三次調査(一九八五年)では、「石辺」、「刀自家」、「祢」、「富」、「稲邑」などの墨書土器が出土しており、今回の調査でも「石辺」が一点出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 〔買塩卅俵カ〕
(33) × (24) × 6 081

(2) 〔大友部龍〕
142 × 12 × 5 032

(1)は、木簡の左側を欠く。(2)は、姓名を表わしたもので一九八五年に出土した西河原森ノ内遺跡の一号木簡にも「大友」の氏名がみられる。

9 関係文献

中主町教育委員会・中主町埋蔵文化財調査会『西河原森ノ内遺跡第一・二次発掘調査概要』(中主町文化財調査報告書第九集、一九八七年)
同『西河原森ノ内遺跡第三次発掘調査報告書』(同第十二集、一九八七年)

(徳網克己)